

忘れてはならぬ

「人の心の痛みを受け継ぐ」

～愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ～

人はなぜ争うのか。世界に目を向けると戦争や紛争が終息していない国があります。パレスチナ問題、ウクライナ侵攻、アフガニスタン紛争、シリア内戦、リビア内戦、イエメン内戦等、そして戦争により犠牲になるのは、小さな子どもたちです。戦争の影響を受け、十分な教育を受けられず暴力にさらされ、場合によっては少年兵として連れていかれるケースもあるようです。

日本は世界で唯一の被爆国です。1945年8月6日に人類史上初めて原子爆弾が投下された広島県、そして3日後に長崎県にも落とされました。今から79年前に起こったことです。私たちは後世の平和を願い、その歴史を知り、語り継いでいく使命があると思います。先人たちは多くの失敗と成功を繰り返し、その経験の中から歴史という形で後世の者に貴重な経験談を残してくれています。

皆さんは修学旅行で広島に行くことで生涯にわたって世界の平和を考える礎になることを期待しています。原爆資料館で体験する、消すことのできない悲惨な過去、そして語り部さんの貴重なお話等、歴史を振り返る良い機会だと考えます。「人の心の痛みを知る」たくさん感じてほしいと思います。

そして、歴史の宝庫である京都、まさに「愚か者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」という格言のとおり、歴史を学び、これからの未来を創造していく皆さんの糧としてもらいたいと思います。

3年生の皆さんが考えたスローガンの「真善美」、物事の真実を捉え（真）、正しい心を持ち（善）、心身ともにバランスのとれた行動（美）、「美にして善なる人」を目標に大いに楽しみ、思い出深い修学旅行となることを心から願っています。

前川 秀幸